

友ヶ島灯台一般公開

平成23年10月29・30日(土・日)
10:00~15:00
(悪天候の場合は中止)

見学者全員にオリジナル記念証をプレゼント

海上保安庁の制服を着ての記念撮影 など

★両日とも定期便を7便に増やし、特別料金で定期船をご利用いただけます。
(大人往復1,600円・小人往復800円)

お問い合わせ

主催 / 和歌山海上保安部 交通課 073-402-5852
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/wakayama/>

後援 / 和歌山市

<http://www.city.wakayama.wakayama.jp>

【同時開催】

友ヶ島語り部ウォーク

加太港発

平成23年10月29・30日(土・日) 9:30~12:30(9:00乗船のみ)
語り部が友ヶ島の見どころをご案内します!

語り部ウォーク 予定ルート

野奈浦棧橋~蛇ヶ池~第二砲台跡~友ヶ島灯台(第一砲台跡)
~孝助松海岸~タカノス山展望台~第三砲台跡~野奈浦棧橋

両日とも先着40名まで

弁当・水筒を持参してください。

悪天候の場合は中止となります。

お問い合わせ 加太漁業協同組合 (073)459-0062

「友ヶ島灯台」の一般公開を行います

和歌山海上保安部では、広く地域の方々に航路標識の役割等を通じて海上保安業務の理解を深めていただくことを目的とした友ヶ島灯台の一般公開を実施します。

記

1 公開場所

友ヶ島灯台（ともがしまとうだい）

（所在地：和歌山市加太苫ヶ沖島 2 6 7 3 番地の 1）

2 日時

平成 2 3 年 1 0 月 2 9 日（土）午前 1 0 時から午後 3 時まで

平成 2 3 年 1 0 月 3 0 日（日）午前 1 0 時から午後 3 時まで

悪天候等により定期船が欠航の場合は中止します。

3 主な内容

（1）友ヶ島灯台の参観

普段入ることができない灯台の内部が見学できます。

灯台内部では、友ヶ島灯台等のパネルを展示しています。

当日は職員による、他の航路標識（灯台、灯浮標など）の説明のほか、海上保安業務の紹介を行います。

また、灯台上部へも昇ることができ、そこから見渡せる景色は圧巻です。

（2）灯台参観記念証の贈呈

今回の一般公開を記念した当保安部オリジナルの灯台参観記念証を発行し、参観者全員にプレゼントします。記念証には、シリアルナンバーを付記していますので、どれも 2 つとない固有のものです。

（3）制服試着コーナー

海上保安庁の制服の試着、潜水土・特殊救難隊の簡易なウェットスーツ（子供用）の試着ができ写真撮影もできます。

（4）友ヶ島灯台 1 3 5 度記念スタンプの貸し出し

友ヶ島灯台近隣に日本標準時子午線 1 3 5 度線が通っており、これにちなんだ記念スタンプの貸し出しを行います。

また、灯台近隣の子午広場からは、東側には友ヶ島灯台、西側には友ヶ島水道を背景とした、すばらしい写真を撮ることができます。

4 その他

（1）友ヶ島灯台までのアクセス

南海電車加太駅から加太港まで、徒歩約 1 5 分

加太港から友ヶ島船着場まで、定期船約 2 0 分

友ヶ島船着場から友ヶ島灯台まで、徒歩約 2 0 分

(2) 一般公開を中止する場合のお知らせ

荒天等により定期船が運休の場合は、一般公開を中止します。

中止にあたっては、当日0830までに和歌山海上保安部のホームページに掲載します。

友ヶ島灯台の紹介

友ヶ島灯台は、瀬戸内海と外海を結ぶ要衝（由良瀬戸）の沖ノ島西端に位置し、明治初期に建設された洋式灯台です。和歌山県では、檜野埼、潮岬に次いで3番目に建設されました。以来、紀淡海峡の道しるべとして船舶交通の安全に寄与し、今年で**139年**になります。

国内には、以前から灯明台と呼ばれるものがありましたが、友ヶ島灯台などの洋式灯台の建設経緯は、幕末から明治維新に至る慶応年間に、江戸幕府が欧米列強から開国を迫られ、国内主要港湾の開港と灯台の建設が求められたことによります。

1866年（慶応2年）、江戸幕府が下関事件の賠償でアメリカ、イギリス、フランス、オランダと締結した改税約書（江戸条約）に8基の灯台（剣埼、観音埼、野島埼、神子元島、檜野埼、潮岬、佐多岬、伊王島）の建設が決定されたことに続き、翌慶応3年、兵庫港（現神戸港）の早期開港に備えイギリスと締結した大坂約定によって更に5基の灯台（友ヶ島、江埼、和田岬、部埼、六連島）の建設が決定されました。これにより明治初年から日本全国に合計13基の灯台が建設され、随時、海上交通の要衝に灯台の建設が行われました。

友ヶ島灯台は、灯台建設のため明治政府の招きで来日した英国人技師R・Hブライントンの設計によるもので、1870年4月に起工、1872年（明治5年）6月25日に竣工しました。灯台建設には、瀬戸内海原産の花崗岩を使い、レンズはイギリス製の第3等不動レンズ、光源は石油3重芯ランプでした。

総工費は、当時の金額で22,964円。現在の金額にすると約3億円です。

この友ヶ島灯台は、安全な船舶航行に貢献し我が国の海運業等を支えた灯台等建設の歩みを物語る近代化産業遺産の1つとして、経済産業省が平成20年度に取りまとめた「近代産業遺産群 続33」の認定受け、その認定プレートが友ヶ島灯台入口に取り付けられています。

【灯台と砲台】

紀淡海峡は、かつて国防の要衝でした。外国艦船が大阪湾へ侵入すれば、京阪神は危険にさらされるので、それを入り口で食い止めようと、旧陸軍は1889年（明治22年）から洲本由良を中心に、和歌山県の友ヶ島と加太地区にまたがる砲台（由良要塞）の建設にかかりました。この時、灯台の位置がこの砲台建設の最適地であったため、1890年、灯台を当初の位置から東方へ25メートル移設させ第一砲台を建設しました。

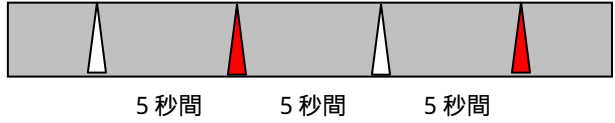
友ヶ島 灯台



灯籠内で光るLU-M型灯器
 (10秒周期で1回転します。)
 平成14年9月15日に新替しました。



友ヶ島灯台の光り方(見え方)



近代産業遺産認定書、認定プレート